

あ お み

第35号

令和4年3月5日

ときわ会加茂支部
広報委員会

冬鳥越の大花時計と蒲鉄車両



受け継ぐべきは 高い志と不断の努力

支部長 小畑 一二美

加茂小学校（62年度）

私の勤務する加茂小学校は来年で創立百五十周年の節目を迎える。加茂市史によれば、明治六年六月の創設当時、初代山本喜内校長の他、五人の教師が着任し、「教師は向学

会員が受け継ぐべきは、その高い志と不断の努力を重ねる姿勢です。」と訴え、一人一人が真剣に考え、自ら行動に移すよう呼びかけられた。

謹厚の者を選び、概ね生徒五十人に対し教師一人とする。」とされていた。公立学校が存在しなかった当時であり、教師の困難は過酷を極めたことが予想できる。さらに調べると、五人の教師の一人である小林謙三先生がときわ会の大先輩であることが判明した。小林謙三先生はその後、明治九年から六年間、第二代校長として加茂小学校の創成期を支える活躍をされたことが分かった。

これを受け、加茂支部で六月にスタートを切った自主研修会では、九つの研修部会が立ち上がった。私が所属する部会では、意欲溢れる部長を中心にラインでグループをつくって、必要な連絡や情報交換のみならず、相互実践紹介が可能な環境が整った。目の前の子どもたちの輝く笑顔のために、指導力向上を二歩も二歩も進める自主研修会に育つほしい。年層別活動は、その世代特有の課題や苦勞、喜びや生きがい等の情報交換を共有し、ときわ会が大切にしてきた「研修と親睦」を具現する場になると確信する。懇親会で親睦は一層深まるが、長らく封印を余儀なくされている。然るべきタイミングで再開できることを願いたい。

このように調べてみて、あおみの郷（加茂・田上）でときわ会員が活躍する現在の状況が、百五十年前から連綿と続いてきたことが根拠と共に明らかにになり、新鮮で素直な驚きや喜び、そして勇気が湧いてくる。と同時に、私たちに寄せられる期待と課せられた責任の大きさを実感する。本年度のときわ会は、活動の重点に「百五十周年記念事業の計画立案と準備の推進」を掲げて、令和五年十月一日（日）の記念式典等に向けて始動する。大橋会長は「我々

を、力強く推進しよう。歴代の先輩諸氏に胸を張れる活動を、力強く推進しよう。